

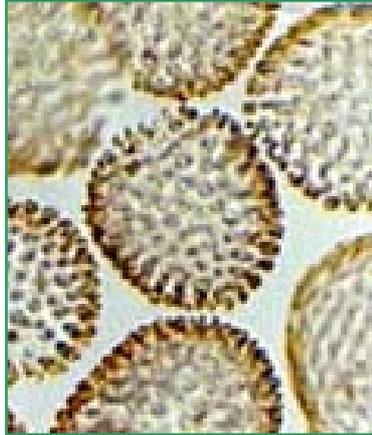
瀬田川プランクトン調査結果速報

～ 第38報 ～

滋賀県立衛生環境センター
琵琶湖水質担当
平成14年12月16日

1. 最も数が多かった種類（優占種）

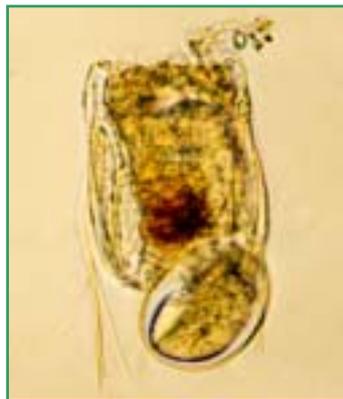
植物プランクトン第1優占種



Uroglena americana
(ウログレナ)
黄色鞭毛藻類

楕円形の細胞が球状の寒天質の表層に規則正しく配列し、球状の群体を形成する。各細胞は不等長の2本の鞭毛を有する。

動物プランクトン第1優占種



Polyarthra vulgaris
(ハネウデワムシ)
輪虫類

体は四角く、横に鳥の羽状の付属物が4ヶ所付いている。前部に2本の触角がある。

コメント

植物プランクトンは、引き続き淡水赤潮を形成する黄色鞭毛藻のウログレナが最も多かった。種類数や総細胞数及び総体積量は、先月に比べ増加傾向にある。動物プランクトンは、先週に引き続きハネウデワムシが最も多く計数され、個体数も先週(300個体/l)より今週(480個体/l)は増加した。

2. 見つかった主なプランクトンとその数（個体数）

(1) 動物プランクトン

第 1 優 占 種		個体数 (個体 / l)
輪虫類	<i>Polyarthra vulgaris</i>	420

第 2 優 占 種		個体数 (個体 / l)
繊毛虫類	<i>Codonella cratera</i>	140

* 個体数については、プランクトンネットで採取したものを直接検鏡して計測した。

瀬田川植物プランクトン調査結果速報

滋賀県立衛生環境センター

琵琶湖水質担当

平成14年12月16日

第38報

(2) 植物プランクトン

(綱) 種 名	細胞数 (群体数)	優占種(占有率)	
		数	体積
(藍) <i>Aphanothece clathrata</i> *	20		
(藍) <i>Oscillatoria</i> sp.*	1		
(黄鞭) <i>Uroglena americana</i>	5900		
(黄鞭) <i>Dinobryon divergens</i>	160		
(黄鞭) <i>Pseudokephyrion tatricum</i>	10		
(黄鞭) <i>Mallomonas fastigata</i>	2		
(黄鞭) <i>Synura petersenii</i>	30		
(珪) <i>Melosira varians</i>	10		
(珪) <i>Melosira granulata</i> var. <i>angustissima</i>	74		
(珪) <i>Cyclotella glomerata</i>	850		
(珪) <i>Cyclotella</i> sp.	30		
(珪) <i>Skeletonema potamos</i>	80		
(珪) <i>Rhizosolenia longiseta</i>	10		
(珪) <i>Fragilaria crotonensis</i>	21		
(珪) <i>Synedra acus</i>	30		
(珪) <i>Nitzschia</i> sp.	10		
(褐) <i>Cryptomonas</i> sp.	100		
(褐) <i>Rhodomonas</i> sp.	60		
(緑) <i>Chlamydomonas</i> sp.	40		
(緑) <i>Micractinium pusillum</i>	80		
(緑) <i>Closterium aciculare</i> var. <i>subpronum</i>	3		
(藍) 藍藻綱	21	0.3	0.9
(黄) 黄緑藻綱	0	0.0	0.0
(黄鞭) 黄色鞭毛藻綱	6102	81.1	73.3
(珪) 珪藻綱	1115	14.8	16.3
(渦) 渦鞭毛藻綱	0	0.0	0.0
(褐) 褐色鞭毛藻綱	160	2.1	7.1
(み) みどり虫藻綱	0	0.0	0.0
(緑) 緑藻綱	123	1.6	2.4
(他) その他のプランクトン	0	0.0	0.0
総 細 胞 数	7521	総体積	2.55E+06
種 類 数	21	(μm^3)	

注1) 細胞数の単位は(細胞 / ml)

ただし*印の種は群体数(群体 / ml)

注2) 優占種は が第1優占種、 が第2優占種
数字は各綱ごとの占有率(単位: %)

注3) 細胞体積は、顕微鏡観察による画像から
試験的に推定した概算値である。